

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 8 授業例①

T.Y. 先生

## 指導計画表

(全8時間)

時間	学習内容・主な活動
1	<ul style="list-style-type: none"><li>■とびら</li><li>・プレ活動（最初の問い）</li><li>■GET Part 1</li><li>・受身形（肯定文）（現在・過去）の導入</li><li>・本文の内容からさらに色々な国の地理・歴史クイズでたくさんの英文に触れ、受け身形の形と意味に気づき、慣れさせる。</li></ul>
2	<ul style="list-style-type: none"><li>■GET Part 1</li><li>・本文読み込み</li><li>・Practice の Listen</li><li>・Speak の身の回りの品の説明をグループ行う</li></ul>
3	<ul style="list-style-type: none"><li>■Get Part 2</li><li>・本文を通して受身形（疑問文・否定文）導入</li><li>・地理・歴史クイズ（カードを使って、その内容について聞く）</li></ul>
4	<ul style="list-style-type: none"><li>■GET Part 2</li><li>・本文読み込み</li><li>・受身全般練習問題</li><li>・不規則変化動詞の過去分詞練習</li></ul>
5~6	<ul style="list-style-type: none"><li>■USE Read</li><li>・In-reading の活動に取り組みながら、本文の内容の読み取り</li><li>・重要な表現についての確認や音読</li></ul>
7~8	<ul style="list-style-type: none"><li>■USE Mini-project</li><li>・Read や Listen での紹介文を参考に日本についての紹介文を書き発表する</li></ul>

## 実践例

### 1. 統合的な言語活動

以前、「道具としての英語」という表現が流行った。統合的な活動もそれに通じるものがあると思う。英語を使って何を知りたいか、何を伝えたいかが大切だと思う。そこで、伝えようとすることを追究する活動をレッスン全体で取り組みたいと考えた。LESSON 8 では受け身形を学習する。受け身形では地理や歴史の話題を取り上げやすく、教科書の題材もインドについて扱っている。また、Mini-projectでも日本とインドの比較を扱い、自分の行きたい国について紹介する活動を設定している。自分の行きたい国について調べさせる時間があまりないこと、行きたい国を決められない生徒がいることを考え、その前段階として日本や自分が住んでいる地域の紹介を最後の活動に据えて、指導計画を立てた。

### 2. ルーティン活動

私はレッスン全体の新出語句、既習でも忘れそうな語句や基本文を一覧にして、練習スペースを入れたワークシートを取り入れている。英語を読める、英語を隠しながら、日本語の意味を見て言える、書けるなど、その生徒のレベルに応じて取り組ませている。1レッスン中に繰り返し触れさせるルーティン活動を行うことで、語彙を増やしたいと考えている。新出語句の導入の工夫等はあまりできないが、定着させることに重点を置いて取り組んできている。

新しい表現の導入時など、会話やゲーム等の活動も定期的に取り入れているが、授業最初に行うルーティン活動は、基本語句・基本文の学習に重点を置いている。

### 3. GET：受け身形の学習

#### ①肯定文（現在・過去）

LESSON 8 は、まず受け身形の学習から始まる。受け身形の例文をたくさん聞かせる活動を通して、新しい文型に気づかせたい。その文として、GET Part 1 の本文と、さらにインドやそれ以外の国、日

本で使われている言語や通貨などの受け身形の文を聞かせ、受け身の形に気づかせ、意味を理解させるよう心掛けた。

T: (黒板に簡単な世界地図を貼り、)

English is used in India. Hindi, ヒンディー語, is spoken in India too. Many languages are used in India. Japanese is used in Japan. French is used in France. Chinese is spoken in China. But it is used by many Chinese people all over the world. Korean is spoken in Korea. But long ago, Japanese was used in Korea. ...

使用言語や通貨を話題に、いろいろな国を取り上げて聞かせ、さらにドリルを行えた。また、戦前の状況等取り上げ、過去形も導入した。

Practice の Listen と Speak では、地理的・歴史的な内容からははずれるが、受け身形の文がよく使われる場面であり、また、後で日本の物を紹介するときに生きるのに、教科書にしたがって取り組ませた。ただし、ペアで行うのは当校の生徒には難しいと考え、4人程度の小グループを作り、教科書で上がっている身の回りのものに3つ加え、1グループに1つずつ割り当て、説明する文を協力して作文させた。できた文は発表させ、クラス全体で確認した。

#### ②疑問文とその応答文・否定文

GET Part 2 では、疑問文・否定文がどうなるか推測させながら、本文を見て、形の確認をする。また、クイズを、Practice Speak を例文として扱い、内容を相手の好きな本や歌ではなく、日本や外国の有名な場所やそれぞれの国の言語や通貨、また歴史的に有名な人やものが書かれたカードを用意し、順番にカードを引き、そのカードに書かれているものについて聞く文をいくつかパターンを示して、4人グループで聞き合せた。

例) S1: (カードを引いて) What's this?

S2: Is it a building?

S1: Yes, it is..

S3: Was it built by Shotokutaishi?

S1: Yes, it was.

S4: Is it Horyuji-temple?

S1: Yes, it is..

受け身の文は、日本語の中では能動的に言えてしまうので、動作主との関係を理解させつつ、文の形と意味に慣れさせたいと考え、受け身形の学習をしているときは授業中に繰り返し形と意味を確認した。

#### 4. USE Read

Readでは、いつもIn-Readingの問いに取り組み、その答えを探しながら、自力で英文を繰り返し読ませる場をもつよう心掛けている。その時に使うワークシートは指導書にあるワークシートをベースにして作っている。

その活動の際には、「問いの中の語句と同じ語句が使われている文を本文中に探すと答えが見つかる。」と繰り返し指導してきている。ここでも同様に取り組んだ。

また、語彙等をつまずく生徒向けには、英語の問いの語句に日本語で意味を加えたワークシートを裏面に用意する。そうすることで、つまづいている生徒だけでなく、意味を加えていないヒントなしの面に挑戦しようとする生徒でも、分からなくなったらヒント有りの面を見て意味を確認できる。

In-Readingの問いを確認後、Check!を扱いながら、本文の表現の中で、代名詞の指すものや分かりにくい文の構造の確認(主語、動詞、目的語、修飾部)を行っている。大切なinputとなる英文であり、長い文が多く出てくるので、複雑な文に出会った時に、どうやって内容をとるか、こつをつかませたいと考え行っている。

音読については、すべてを通すと大変なので、英問英答に取り組みさせる際に、段落毎に音読とQ&Aを交互に扱った。

教科書の右上にあるリーディングチェックボックス全てを授業中に満たすのは無理なので、宿題となる。

Post-Readingとして、Tryの話題の日本紹介を次のMini-projectと合わせて行うことにした。

#### 5. USE Mini-project

1のListenは生徒にはかなり難しいが、2回目は1文ずつポーズを置くなど、メモの時間を確保しながら取り組ませた。解答後、スクリプトを与えて確認し、2のSpeakの解答とした。同時にそのスクリプトの表現は、教科書本文とともに、次のWriteで参考になった。

2のSpeakで使うよう示してある表現, is located in ~ / is spoken in ~ / is used in ~ / is known for ~ も使って、3のWriteでは、外国のことではなく、日本と自分が住んでいる地域のことについて、紹介する文を考えさせた。これまでのレッスンで、LESSON 4で自分が住んでいる地域の食べ物や自分が住んでいる地域のことについて紹介文を書く活動を行ったので、さらに広げて日本と自分が住んでいる地域のことについて紹介する文で、受け身形を取り入れて作成させた。

内容は、日本全体でも、自分が住んでいる地域を中心にとらえても、修学旅行先で学習した地域を取り上げても、内容はグループに任せた。

これも4人グループで、取り組ませた。発表時に1人が2文以上言えるくらいの文数を作成後、グループごとに発表させた。

#### 6. 終わりに

このレッスンは、ほぼ一貫したテーマで、教科書本文やリスニング問題で出てきた表現などを読んだり聞いたりする活動(Listening, Reading)を参考に、自分から発信するWritingやSpeakingにつなげる、言語習得の自然な流れに近い形で学習を進めることができた。限られた授業時数の中で効率的に取り組むことができたと思う。

受け身形自体は日常的な内容で自己表現活動をさせにくく、まだワークシートや活動の進め方などスムーズでない。また、生徒の興味を引く内容になるよう、生徒にとって身近な内容をさらに取り入れ、生徒の興味を引き付けたい。同時に、英語が苦手な生徒に対して、語彙や生徒のつまづきを補うヒントなどがまだ少ないので、これからも改善していきたい。